

第 73 回歴史探訪会 令和の御代に想いを込め「平城京跡」を巡り“日本の誕生”を学ぼう

実施日：令和2年1月15日

場 所：奈良・平城京跡

案内人：内海春樹

前夜の雨も早朝には上がり集合場所の近鉄大和西大寺駅にはオープン参加者9名を含め31名が集合しました。今日は、今年が“皇紀2680年”“日本書紀編纂1300年”の節目の年に当たる事から、奈良平城京を訪ね大極殿の中に展示されている“高御座(たかみくら)”を見学し、そこで「天皇と元号、主な儀式、更には日本の誕生」などについて学びました。

コース：近鉄西大寺駅北口スタート～平城宮大膳職跡・平城宮第一号木簡出土地～第一次大極殿・高御座見学・日本の誕生についての説明～南門建設工事現場～天平うまし館(昼食)～復元遣唐使船～(午後)平城宮いざない館 見学～ 近鉄西大寺駅で解散

1. 平城京とは

平城京は、今から 1300 年ほど前に、現在の奈良市につくられた都です。ここで日本の律令国家としてのしくみが完成し、天平文化が花開きました。平城京を中心とした 74 年間は、奈良時代と呼ばれています。

平城京ができたのは西暦 710 年。元明天皇が律令制にもとづいた政治をおこなう中心地として、それまでの都だった藤原京から遷都し、新しい大規模な都をつくりました。平城京のモデルとしたのは、その頃もっとも文化の進んでいた唐(中国)の長安という都でした。

東西約 4.3km、南北約 4.8km の長方形の東側に、東西約 1.6km、南北約 2.1km の外京を加えた総面積は約 2,500 ヘクタール。都の南端にある羅城門から朱雀門までまっすぐにのびるメインストリート・朱雀大路は幅約 74m。基盤の目のように整然と区画されたスケールの大きな都には 10 万人以上の人々が暮らしていたといわれています。



都の中心は平城宮

平城京の中心は、政治・儀式の場である大極殿・朝堂院、天皇の住まいである 内裏、役所の日常的業務を行う官衙や宴会を行う庭園など、都を治める官公庁が集まった平城宮でした。東西・南北ともに 1 km の東側に、東西 250m、南北 750m の張り出し部を持つ平城宮の周りには大垣がめぐらされ、朱雀門をはじめ 12 の門が置かれました。平城宮に入ることができたのは、皇族や貴族、役人や 使用人など、ごく限られた人々でした。現在、世界遺産を構成するひとつとして、だれもが自由に散策を楽しめる平城宮跡となっています。

2. 平城宮第一号木簡出土地

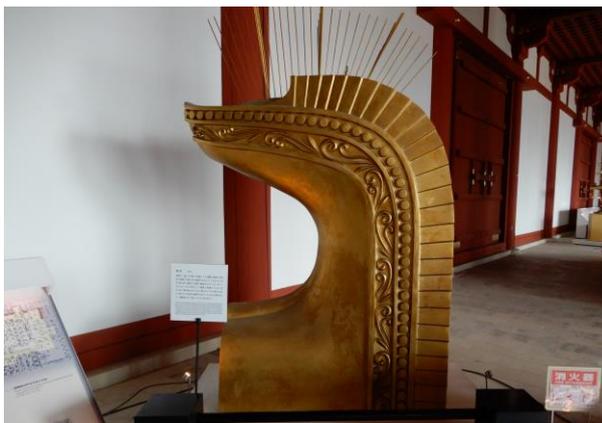
1961年1月24日、この地点にあった奈良時代の役所の土坑から、平城宮跡で最初の木簡が出土しました。ここは日本の木簡研究の出発点ともいえる場所です。木簡は史書には載っていない歴史を推測する手がかりとなる重要な資料であり、ここから出土した木簡をはじめとする平城宮出土木簡は2017年木簡として初めて国宝に指定されました。(地下の正倉院と言われる)木簡は紙と違って費用が安い・丈夫・削ることで使いなおしが出来る事から役所の中で頻繁に使われました。一号木簡は大豆、酢、醤油などの食材を各地に請求するもので、全国から食材がとどけられた事から、権力の大きさが伺えます。



一号木簡出土地での説明

3. 第一次大極殿

平城宮の正門である朱雀門の真北の中央に第一次大極殿があります。大極殿は、天皇の即位や元日朝賀などの国家儀式、あるいは外国使節の歓迎の儀式の際に天皇が出御する施設です。現在そびえる大極殿は遷都1300年を記念し10年をかけ復元されました、正面約44m、側面約20m、地面より高さ約27m。平城宮最大の宮殿である。大極殿復元に際して大きなハードルだったのが、当時の設計図や参考になる絵画などが残っていないことでした。そのため、発掘調査で判明している基壇や礎石の状態などから大極殿の大きさ、形を推定しました。わずかに残る文献や法隆寺金堂、薬師寺東塔など、同時代の寺院建築も参考にされています。



大極殿屋根の左右にある鴟尾

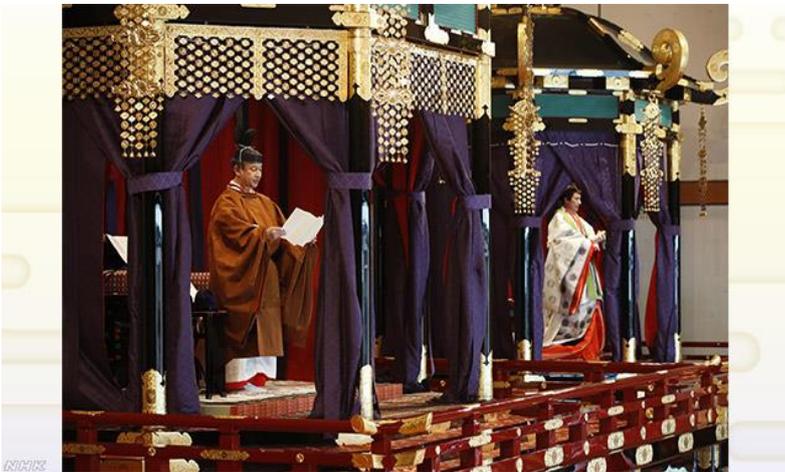


大極殿屋根中央飾り

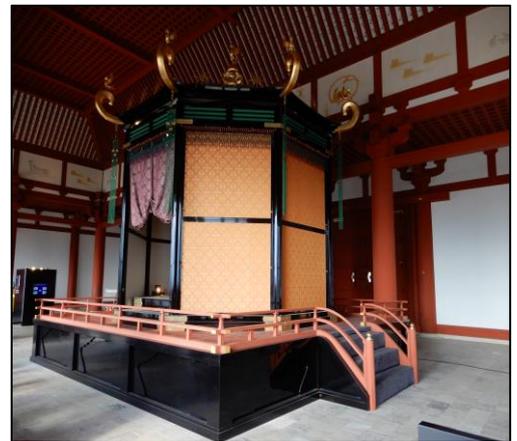
高御座

「高御座(たかみくら)」は奈良時代から天皇の即位に関する重要な儀式などで用いられてきたとされています。昨年秋の「即位礼正殿(そくいれいせいでん)の儀」では、天皇陛下は、台座の上へのぼって即位を宣言するお言葉を述べられます。現在の「高御座」は、皇后さまがのぼられる「御帳台(みちょうだい)」とともに大正天皇の即位にあわせて大正2年につくられ、3代の天皇の即位に伴う儀式で使われてきました。高さは6メートル50センチ近くあり、縦横それぞれ6メートルほどの「浜床(はまゆか)」と呼ばれる四角形の台座の上に、八角形の天蓋(てんがい)が設けられています。「浜床」の側面には、いずれも想像上の動物「鳳凰(ほうおう)」や「麒麟(きりん)」が描かれています。天蓋の一番上には金色の大きな鳳凰が載っているほか八角形の頂点の部分それぞれにも小さな鳳凰が取り付けられています。

「御帳台」は、「高御座」とほぼ同じ作りですが、やや小ぶりで、高さは5メートル50センチほど、「浜床」の大きさは縦横それぞれ5メートルほどとなっています。「高御座」と「御帳台」の台座には其々「御椅子(ごいし)」という椅子が置かれます。「高御座」には歴代天皇に伝わる三種の神器(じんぎ)のうちの剣(つるぎ)と曲玉(まがたま)などを置く「案(あん)」という台も置かれます。天蓋からは、表が深い紫色、裏がひ色の絹織物のとばりがかけられていて、侍従と女官がこのとばり開けると両陛下が初めて参列者に姿を見せられることになっています。



令和元年の即位礼正殿の儀



高御座のレプリカ

4. 天皇の歴史や日本の誕生について説明しました

- ・今年(令和元年)は皇紀2680年、神武天皇が45歳の時宮崎日向から「海道東征」で各地を治め奈良橿原において初代天皇として即位(紀元前660年)されたのが最初です。
- ・代々主な天皇について
 - ・女性天皇(8人10代)はすべて天皇の内親王であり、また男系男子の天皇 攘夷へのピンチヒッターであった。
 - ・女系天皇とは 母方から皇室の血統を受け継ぐ(父が一般人)
 - ・元号 一番最初は「大化」、39代孝謙天皇(645~650年)の時代から。「令和」は248番目。昔は1代の天皇で複数の改元が行われた。使用漢字は73文字、最も多い字は「永 29」次は「元と天 27」
- ・「日本」の誕生
 - ・天武天皇が中国を始め諸外国に日本と皇室の歴史を明らかにするため「古事記」、「日本書紀」の編纂を命じる。
 - ・それまでの国名「倭」を「日本」とし、「大王」を「天皇」とした。
聖武天皇が東大寺に大仏殿を建立、日本の文化や技術力を知らしめた。



復元された大極殿を背景にして

5. 南門復元整備工事

平城宮の中で最も重要な式典会場となる内庭広場の門である。この復原工事は長期にわたるため、工事現場を公開しながら、現在まで伝承される伝統技術の素晴らしさを広く発信していく予定です。南門は入母屋造りの五間三戸二重門に復元され、間口 22M、奥行 9M、高さ 20M と朱雀門よりやや小さな建物です。工事は伝統工法で柱や梁を組み上げていく匠の技や、古代の工法による左官や 瓦葺きがなされている。完成予定は 2022 年 3 月。



完成予想図 大極殿の真正面が「南門」 両横に「東西楼」 周囲に「築地回廊」

今日は見学の途中から冷たい風が次第に強くなり、身体が冷え切る状態で昼食場所として予約していた“天平うまし館”に急ぐ。ここでは暖房が良くきき皆さん身も心もホッとしゆっくりと昼食にする。

6. 朱雀門広場

・遣唐使船見学

全長 30メートル、約300トンの木造船。 この船に約150名が乗り3隻～4隻で唐に渡った。中国唐に学ぶため、若い役人や僧侶などが命懸けで日本海や東シナ海を渡った1300年前に想いを巡らせました。

・棚田嘉十郎さんの銅像

明治末期に、ここが昔奈良の都であった場所と確信し、私財を投げ打ち田畑を買い、国や県に保存復元を働きかけながらも、信頼していた人の裏切りの責任を取り割腹自殺されました。その後すぐに国がここを史跡として認め現在に至っています。この棚田さんがいたからこそ、現在の平城京跡がある事を忘れてはならないと思います。

・平城宮いざない館で「平城宮跡の歴史と往時のいとなみ」を学ぶ、企画展示室では、洋画家・川瀬忠さん絵画展「奈良の伝統的な祭り」も鑑賞できた。



棚田嘉十郎銅像前で



遣唐使船を背景にして

寒い1日でしたが、参加者のみなさん最後まで頑張って行動して戴きありがとうございました。